

幸せに生きるために

中 三

「幸せ」には、様々な形がある。好きなことをして生きていくこと、気の合う友人と楽しく過ごして生きていくこと、まだまだ、他にもたくさん「幸せ」の形があるだろう。私はその中でも、愛する人と共に生きていくという幸せに憧れをもっている。そして、その「愛」にも多くの形があるのだということを知っている。

この世界には、異性を愛する人だけではなく、同性を愛する人、また、女性と男性の両方を愛する人、自分の性別をはっきりと認識しない人、いろいろな人がいる。私は昔から同性愛、両性愛に対して深い興味があった。それには、幼い頃何気なく見ていたテレビ番組が影響している。たまたま同性愛についての特集が組まれていたのだ。同性を愛する人もいるのか、と驚きつつも、一般的に言われる「恋愛」とは一風変わったそれについて、私は「美しい」と思った。性別を気にせず、一人の人間を愛するというその姿勢が、まだ幼

かった私にさえ、そう思わせたのだ。それ以来、テレビに限らず、本や雑誌などでも同性愛や両性愛についての特集に注目するようになっていた。

この作文では、これまでに考えてきたことや、今感じていることなどを書いてみたいと思う。

まず、なぜ同性愛や両性愛などは差別の対象となるのか、なぜそうした差別はなくなるのか、ということについてだ。私はそれを、日本では異性を愛して当然と言わんばかりの古くからの根強い風習の様なものがあるからだと考えている。それは「文化」と言ってもいいだろう。私の周りには大人たちも、同性愛、両性愛に「賛成」と言い切る人はとても少ない。それどころか、「気持ちが悪い。」とか「理解ができない。」などと言う人さえいるほどだ。私はそんな人たちを見て、とても寂しく悲しい気持ちになった。なぜそんなに軽々しく人の生き方を否定できるのか、なぜ私は「美しい」と感じられたその生き方が否定されなければならないのかと、怒りさえ覚えた。同じ人間として、地球に住む仲間として、認めることはできないのだろうか。罪を犯すような悪いことをしているわけではないのに。

では、なぜ否定されるのか。調べてみると、江戸時代には同性愛は罪とされ、罰せられていたということが分かった。やはり、今もなお残っている差別は、ずっと昔からあったものだったのだ。長い年月が経っても消えないそれは、今、多くの人を苦しめている。

苦しむ人たちのために、私たちができることはあるだろうか。もしあるとすれば、それは何だろうか。もちろん、たった一人の、しかも中学生でしかない子供が動いたところで、この世の中の「常識」を変えることはできないだろう。しかし、身近にいる同性愛や両性愛をよく思っていない人たちの意識を、少しだけでも変えるということは可能なのではないだろうか。

現在、L（レズビアン）、G（ゲイ）、B（バイセクシュアル）、T（トランスジェンダー）、Q（ジェンダークイア、ジェンダークエスチョニング）などと言われる人の存在がニュースなどで取り上げられ、注目される機会が増えてきている。これまでに、差別の対象とされていた人々が、世間の目を恐れず、自らの権利を訴えはじめたのだ。つまり、「常識」を変えなければいけない時代になってき

ている、とは言えないだろうか。私は、「愛」に性別や人種は絶対に関係ないと考えている。当事者であるその人たちが幸せに過ごしているなら、何の問題もないはずだ。わざわざ人の「愛」の形に文句をつけたり、あってはならないもののように無視したりするのは、くだらない行為でしかないと思う。

世の中の「常識」と呼ばれた古い時代からの価値観に飲み込まれ、これまでの人々がしてきたように、一部の人が苦しんでいる現実に目をうつぶって生きるのか。それとも、自分の意志を世の中に発信し、新しい時代へと突き進むべく生きるのか。私たちは今、その生き方を問われているのだ。同じ地球に生きる仲間として、自分とは違う感性をもった人たちのことを、少しでも考えることができたなら、理不尽な差別を解決する鍵となるのではないだろうか。そして、誰もが自らの「幸せ」の形を追求していける社会となることを願っている。